

【事業実績】国際黒曜石会議開催に向けた地域連携プロジェクト

1. 文化財による観光・地域振興のモデルづくり

①現地見学ツアーの開催

黒曜石を生みだした火山活動や旧石器時代の石器製作の技術や文化、さらには地域の産業を地質や自然環境の視点から紹介する黒曜石ジオツアーを開催

(9月23日・25日)。

ガイドは埋蔵文化財センター職員とNPO法人えんがあるジオ倶楽部の会員が担当する。2日間で定員32名中26名参加。



参加者の感想 一般では行けない貴重な場所を解説付で案内していただきありがとうございました。ガイドの皆様も楽しんでいらっしゃる様子が良かったです。また、観光振興の面でランチが付いていたのだと思いますが、いい企画だと思います。

②ツアーガイド冊子制作

現地見学ツアーのアンケートや利害関係者との意見交換を参考に、文化財や地域資源への理解を深めるためにツアーガイド冊子の制作を行う。

冊子の原稿は地球科学や考古学を造詣の深い地元ガイドに依頼する。



③文化財の地域振興に向けた利害関係者との意見交換

現地見学ツアーの成果や課題を利害関係者と共有し、収益モデル構築のための意見交換を対面及びオンラインにて行う(9月28日・12月27日)。

参加団体：NPO法人えんがあるジオ倶楽部、NPO法人丸瀬布昆虫同好会、遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループジオ・ザリ・クラブ、えんがる町観光協会、えんがる商工会遠軽商工会議所、遠軽物産協会、白滝ジオパーク推進協議会



参加者の意見 文化財を活用した現地見学ツアーは、観光振興として集客や経済効果に成果がみられるため、来年度以降も継続しながら運営体制の充実を図りたい。

2. 国際黒曜石会議を契機とした地域の国際化に向けた受入体制の整備

①国際黒曜石会議学術運営部会の開催

国際黒曜石会議遠軽大会（令和5年7月開催）に向けて運営団体である白滝ジオパーク推進協議会に設置された学術運営部会において、Second Circular や Website に掲載するプログラム内容の協議をオンラインにて行う（11月4日）。



②国際黒曜石会議開催に向けた受入体制の整備

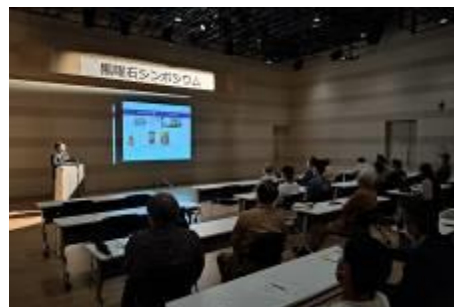
国際黒曜石会議に開催する一般住民向けのプログラムや海外参加者の受け入れに関して、学術運営部会と関係団体との意見交換をオンラインにて行い、課題を共有する（1月16日）。

共有された成果や課題 多言語対応のホームページが増加し、情報発信力は強化されたが、町内の表示や公共施設、飲食店での外国語対応できる人材は不足している。翻訳アプリの活用など対応を検討する必要がある。なお、黒曜石資源を含む文化財は外国人観光客の誘客にも有効なテーマとなる。

3. デジタル技術を駆使した文化財の認知度向上、学習スタイルの提供

①黒曜石シンポジウムの開催

地球科学及び考古学の成果から地域資源の特徴や重要性をわかりやすく紹介するために対面とオンラインを併用し開催する（9月19日）。参加者58名。



参加者の感想 講演のポイントを絞ってまとめられており分かりやすかった。また、考古学、地質学、分析など他方の切り口がよかった。内容が興味深かったが、回線の不具合か音声が聞き取りにくかったのが残念でした。来年の国際黒曜石会議が楽しみです。

②映像や画像を活用した展示解説や体験活動の実施

白滝ジオパーク HP に掲載する埋蔵文化財センター展示室の3Dモデリングデータや黒曜石露頭や埋蔵文化財包蔵地を含むジオサイトカルテ、映像資料を見学・体験学習受け入れ時の事前・事後学習への利用、出前学習や観光イベント時に活用することで、より深い学びの提供や広域への情報発信が可能となった。



- 9/16 紋別市潮見中学校
- 9/22 遠軽町生田原小学校
- 11/ 9 遠軽高等学校
- 2/ 2 みんなおいでよ北海道
ジオパーク 2023 (札幌市) など

